

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 構想した単元では本質的な問いを「地球上ではどのようなことが起こり、私たちはどう行動すればよいだろう」と設定した。SDGsの目標には「人や国の不平等をなくそう」「気候変動に具体的な対策を」など地球規模での経済や環境の課題に関わるものがある。地球上で起こっている課題に対して、私たちはどのようなことができるかということを考えて行動することが求められている。そこで単元の初めにSDGsについて学ぶことで、世界で起こっている問題について知り、単元を通して「なぜアジア州は急速に経済発展したのだろうか」という問いのもとで、生徒は経済発展とその課題について主体的に考察し、本質的な問いに迫ることができた。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【思考・判断・表現】

- 単元前において、アジア州の地域の国についてのイメージを聞いたところ、生徒の回答は、漠然としたイメージはもっていたが、表現内容が簡単なものであり、かつ表面的な見方で回答するものが多かった。しかし、授業のまとめにおける生徒の記述では、社会科の見方・考え方をはたらかせて表現することができるようになった。
- 生徒はアジア州の各地域の学習を通して、さまざまな資料を用いて、国の現状や課題について多面的・多角的に分析することができた。また、解決策についても具体的に考えることができた。

- ・機械が多い
- ・日本と貿易する大きい国
- ・昔から今までずっと大国
- ・人が多い

アジア州の地域の国についてのイメージ（中国）

中国は電子機器などの機械類を世界に多く輸出していて経済特区をつかったことで沿岸部が発展、余った農作物が日本にも多く輸出している。地域間の格差をなくすために西部大開発を進めている。二酸化炭素の削減や人口の分散、持続可能な社会への取り組みも必要になってくる。

授業のまとめにおける生徒の記述

※波線部は見方・考え方を用いている部分、下線部は解決策を考えている部分

- 各教科においても単元を通して学んだことや考えたことを、相手に伝えることを意識しながら、自分なりの言葉や文章でまとめ、表現することに課題がみられる。日頃の授業から相手に伝えることを意識して表現をする機会をより多く設けたり、表現活動を行いやすい環境づくりに取り組んだりする必要がある。

【主体性】 学校評価アンケートの肯定的回答の割合（第1学年）

（％）

アンケート内容	1学期末	2学期末
授業では、お互いに学び合いながら学習することができていました。	94.4	98.1
授業でのグループ活動では積極的に発言しています。	80.6	81.3

- 学校評価アンケートにおいて、「学び合い」、「積極的に発言」することの肯定的回答の割合が上昇した。課題として捉えていた「積極的に発言」することについて、本単元での、グループ活動の際は、自らの考えをもち、それを表現し、より深めていけるように個人活動の時間を確保し、自分の意見を整理させ発言できるように工夫したことが、生徒の積極性を引き出せたと考える。

3 「デジタル機器」の活用

- 生徒がグループでの話し合いの際、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いたりする場面で、生徒は、あらかじめタブレットに配付された資料を使って説明することができた。必要に応じて資料を拡大して活用していた。
- 教員が加工した資料をカラーで提示できるため、注目させたいポイントが分かりやすい。（右の写真①・②）
- 生徒が自分の考えを伝えるときに必要に応じて、資料を適切に加工することができるようになれば、より伝わりやすくなる。

写真①



写真②



タブレットに配付された資料